

寄稿論文

分科会1 ワークショップ

—帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース『COSMOS』の活用—

キーワード

JSL児童, 国語科教育, 国語教科書, COSMOS, 語彙シラバスデータベース

田中祐輔・森篤嗣・毛利田奈津子

1. はじめに

子どもの日本語教育研究会第6回大会が2021年3月6日(土)に開催され、2件の分科会ワークショップ、そして、1件の大会企画パネルが催された。本稿では、そのうち、分科会1として開催されたワークショップ「帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース『COSMOS』の活用」について報告する。

本ワークショップは、文部科学省検定済国語教科書(平成27年度検定)に掲載された語彙をデータベース化し、アノテーション処理などが行われた帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース『COSMOS』(<https://cosmos.education/>)の活用方法を広く共有し、ご参加の方々のJSL児童教育実践に役立てていただくことを目的に行われたものである。

本ワークショップは以下の三部構成で実施された。

1) データベース紹介：田中祐輔

テーマ：児童は日々、どのような語に接していて何が“難しい”のか

JSL児童をとりまく「ことばの世界」について、COSMOSを用いて国語教科書の観点から理解を深めた。

- 田中祐輔「COSMOS-帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース-」

2) 利用方法とデモンストレーション：森篤嗣・毛利田奈津子

テーマ：COSMOSの活用事例を知ろう

世界34カ国・地域で利用されているCOSMOSについて、学校教育の現場や授業研究への応用可能性について、二つの分析事例をもとに理解を深めた。

- 森篤嗣(10分) 教師と児童をつなぐ「教科書」- “考えを深める” から見る日常言語と学習言語・日本独特の学校文化-
- 毛利田奈津子(10分) 教科書頻出語の“扱われ方”を調べる- 「書くこと」領域の学習における「まとめる」-

3) 操作方法の解説：田中祐輔・森篤嗣・毛利田奈津子

テーマ：COSMOSを実際に使ってみよう

COSMOS を実際に操作しながら、JSL 児童が作品を読む際に必要な語彙や、学校特有の言葉の使われ方を把握する方法について解説し、参加者がデータベースの使用方法についてマスターするためのサポートに取り組んだ。

- ワーク1 『ごんぎつね』のキーワードを探す(田中祐輔)
- ワーク2 「教科書特有の表現の用いられ方を調べる」(森篤嗣)
- 付録資料紹介「学校教育現場に役立つ分析用ファイルの紹介」(毛利田奈津子)

以下に、対象としたデータベース COSMOS の概要と、ワークショップの内容、得られた知見、展望について述べる。

2. データベース『COSMOS』の概要

グローバル化と日本の国際化の進展に伴い、日本の在留外国人数は令和2年6月末の時点で288万人を超えている(法務省入国管理局, 2021)。小学校に通う外国人児童数は増加・多様化し、日本語指導が必要な日本国籍児童も10年で倍以上に増えている(文部科学省, 2015)。我が国で学ぶ児童が日本語を母語とするしないに関わらず等しく学習機会を得るために日本語支援拡充が不可欠であると指摘されている(文部科学省, 2014)。それを支える国語科の役割は重要であるが、教師による指導や帰国・外国人児童の教室参加に難しさが伴うことが指摘されている(文部科学省, 2010・古川, 2015・田中, 2020)。

帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベースCOSMOS(作成: 田中祐輔/助成: 公益財団法人博報堂教育財団第13回児童教育実践についての研究助成)は、Creation of Harmonious JSL Education in Elementary Schools with Syllabus of Japanese Language Textbook Vocabularyの略称で、文部科学省平成27年度検定国語教科書(5社: 光村図書, 三省堂, 東京書籍, 学校図書, 教育出版)51冊のアノテーション処理済語彙データと分析結果が掲載され、どのような点に留意して指導すべきかが示されたWebサイトである(図1)。日本語を母語とする児童も、母語としない児童も、ともに国語を学ぶことのできる「共生型国語科教育」の実現を目指し構築されたものである。



図1 JSL国語教科書語彙シラバスデータベース『COSMOS』

COSMOS は、次の三つの柱で構成されている。1) 小学校第一学年から第六学年までの全ての国語教科書に掲載された語と、学年、出現ページ、単元名、作品タイトル、原作者、本文中の表記、原型、ルビ、意味、出現箇所、品詞に関する情報。2) 各語項目の全国語教科書における出現頻度と教科書間の重なり度合いから導かれた小学校国語教科書の語彙的特徴。3) 小学校第一学年から第六学年までの国語教科書掲載語彙と日本語を母語としない日本語学習者向け試験である JLPT 日本語能力試験の語彙レベル判定基準『日本語能力試験出題基準【改訂版】』(2002年)とを照らし合わせた難度判定結果。以上について JSL 児童への日本語支援に携わる教師や教材作成者、研究者が情報を得ることができるものとなっている。各種情報に関する excel ファイルや図表をダウンロードすることも可能である。対象とされている小学校国語教科書を表1に示す。

表1 対象国語教科書51冊(文部科学省平成27年度検定)

学年	No.	出版社	教科書名	学年	No.	出版社	教科書名
第一学年	KT1-1	光村図書	『こくご 一上 かざぐるま』	第三学年	KT3-5	教育出版	『ひろがる言葉 小学国語 3上』
			『こくご 一下 ともだち』				『ひろがる言葉 小学国語 3下』
	KT1-2	三省堂	『しょうがくせいこくご 一年上』		KT4-1	光村図書	『国語 四上 かがやき』
			『しょうがくせいこくご 一年下』				『国語 四下 はばたき』
	KT1-3	東京書籍	『新編 あたらしいこくご 一上』		KT4-2	三省堂	『小学生の国語 四年』
『新編 あたらしいこくご 一下』			『新編 新しい国語 四上』				
KT1-4	学校図書	『みんなとまなぶ しょうがっこうこくご 一ねん上』	KT4-3	東京書籍	『新編 新しい国語 四下』		
		『みんなとまなぶ しょうがっこうこくご 一ねん下』			『みんなと学ぶ 小学校国語 四年上』		
KT1-5	教育出版	『ひろがることば しょうがくこくご 1上』	KT4-4	学校図書	『みんなと学ぶ 小学校国語 四年下』		
		『ひろがることば しょうがくこくご 1下』			『みんなと学ぶ 小学校国語 四年下』		
第二学年	KT2-1	光村図書	『こくご 二上 たんぼ』	第四学年	KT4-5	教育出版	『ひろがる言葉 小学国語 4上』
			『こくご 二下 赤とんぼ』				『ひろがる言葉 小学国語 4下』
	KT2-2	三省堂	『小学生のこくご 二年』		KT5-1	光村図書	『国語 五 銀河』
			『新編 新しい国語 二上』				『小学生の国語 五年』
	KT2-3	東京書籍	『新編 新しい国語 二下』		KT5-2	三省堂	『新編 新しい国語 五』
『みんなと学ぶ 小学校こくご 二上上』			『みんなと学ぶ 小学校国語 五年上』				
KT2-4	学校図書	『みんなと学ぶ 小学校こくご 二下上』	KT5-3	東京書籍	『みんなと学ぶ 小学校国語 五年下』		
		『みんなと学ぶ 小学校こくご 二下下』			『みんなと学ぶ 小学校国語 五年下』		
KT2-5	教育出版	『ひろがることば 小学国語 2上』	KT5-4	学校図書	『みんなと学ぶ 小学校国語 五年下』		
		『ひろがることば 小学国語 2下』			『ひろがる言葉 小学校国語 5上』		
第三学年	KT3-1	光村図書	『国語 三上 わかば』	第五学年	KT5-5	教育出版	『ひろがる言葉 小学校国語 5下』
			『国語 三下 あおぞら』				『国語 六 創造』
	KT3-2	三省堂	『小学生の国語 三年』		KT6-1	光村図書	『国語 六 創造』
			『新編 新しい国語 三上』				『小学生の国語 六年』
KT3-3	東京書籍	『新編 新しい国語 三下』	KT6-2	三省堂	『小学生の国語 六年』		
		『みんなと学ぶ 小学校国語 三年上』			『新編 新しい国語 六』		
KT3-4	学校図書	『みんなと学ぶ 小学校国語 三年上』	KT6-3	東京書籍	『新編 新しい国語 六』		
		『みんなと学ぶ 小学校国語 三年下』			『みんなと学ぶ 小学校国語 六年上』		
				第六学年	KT6-4	学校図書	『みんなと学ぶ 小学校国語 六年下』
							『みんなと学ぶ 小学校国語 六年下』
				第六学年	KT6-5	教育出版	『ひろがる言葉 小学校国語 6上』
							『ひろがる言葉 小学校国語 6下』

掲載されている国語教科書語彙シラバスデータベースの規模としては、第一学年は30,834語(光村図書5,274語,三省堂5,121語,東京書籍7,530語,学校図書6,377語,教育出版6,532語),第二学年は58,941語(光村図書12,093語,三省堂7,679語,東京書籍13,413語,学校図書12,887語,教育出版12,869語),第三学年は87,875語(光村図書18,345語,三省堂12,826語,東京書籍20,998語,学校図書19,222語,教育出版16,484語),第四学年は97,891語(光村図書20,865語,三省堂13,666語,東京書籍23,106語,学校図書21,354語,教育出版18,900語),第五学年は110,096語(光村図書22,633語,三省堂16,250語,東京書籍24,584語,学校図書24,770語,教育出版21,859語),第六学

年は118,270語(光村図書23,998語,三省堂18,803語,東京書籍24,723語,学校図書26,185語,教育出版24,561語),となっている(いずれも延べ語数)。

3. ワークショップ

3-1 データベース紹介(話題提供者:田中祐輔)

3-1-1 『COSMOS』の機能と内容

ワークショップの第一部では田中が話題提供者となり、「COSMOS-帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース」と題したCOSMOSの紹介が行われた。COSMOSは主に6種のページ群で構成されている(図2)。まず、トップページでは、小学校第一学年から第六学年までの国語教科書掲載語彙が流れ、タイトルがフェードインする。これは、国語教科書が持つことばの世界を示すことを意図して設けられた機能であり、トップページのアニメーションはそうした豊かなことばの世界を体感し、究明することがイメージされている。次に、本研究の背景が「BACKGROUND」ページとして掲載され、研究が行われた背景と問題意識が述べられている。その上で、「APPROACH」ページでは、研究の目的と手法が具体的に記されている。続く「ANALYSIS REPORT」ページでは、本研究が構築したデータの分析によって得られた知見が掲載されている。国語教科書掲載語彙はいかなる特色を持ち、指導する上でどのような点に留意すべきであるかが詳しく、そして、わかりやすくデータとともに示されている。JSL児童への日本語支援にとりわけ必要度の高い、各学年の国語教科書掲載語彙延べ語数と品詞別内訳、出現頻度と重なり分析、教科書相互間の語彙的異同、難度判定の四つの観点から分析した結果が図示されダウンロードすることも可能となっている。「DOWNLOAD」ページでは、国語教科書掲載語彙のデータが格納されており、利用者がダウンロードし活用することが可能となっている。各ページの右上に設置された「i」ボタンを押すとCOSMOSに関する解説ページにジャンプするように設定されている。本解説ページでは、COSMOSが公益財団法人博報堂教育財団による第13回児童教育実践についての研究助成を受けて行われたものであることや、データベースの利用方法と問い合わせ先について記されている。



図2 『COSMOS』の各ページ

2021年8月時点において、COSMOSの利用は世界34カ国・地域(日本, アメリカ, 中国, ブラジル, 台湾, 香港, カナダ, ドイツ, イギリス, ロシア, ベトナム, アラブ首長国連邦, シンガポール, アルゼンチン, インドネシア, イタリア, フランス, インド, 韓国, オランダ, タイ, スイス, アイルランド, カザフスタン, ラトビア, モロッコ, メキシコ, マレーシア, ネパール, フィリピン, カタール, スロベニア, ウクライナ, ウズベキスタン)に広がっている。

COSMOSをご利用くださる教育機関からコーパスの紙版への要望が出される場合もあり, その場合は学年ごとの実践結果をとりまとめた冊子が郵送されている。本冊子は特に需要の多い第一学年から第四学年まで作成され, 4冊の総ページ数は3,000ページに及ぶ。

帰国・外国人児童の日本語支援以外の利用も生じている。例えば, 沖縄県文化協会しまくとぅば普及センターよりのご依頼で、『しまくとぅば検定』『しまくとぅば単語帳』の級別語彙リスト作成のためのデータがCOSMOSより提供されている。国語教科書掲載語彙とその難度判定結果が, しまくとぅばをめぐる検定試験や単語帳の語彙レベルを検討する上で利用されている。その他にも, 日本語を母語としない成人学習者向け日本語教科書開発に際してのデータ提供なども行なわれている。また, こうした利用者や利用形態の増加と多様化に応じ, 実践内容や提供されている教育資源の概要がより正確に伝わるよう, 説明シート(https://cosmos.education/img/cosmos_A4.pdf)や概要動画(https://www.youtube.com/embed/zS2iGGsit_Y)の作成等にも取り組まれている(図3)。



図3 説明シートと概要動画

3-2. 「考えを深める」とはどういうことか(話題提供者: 森篤嗣)

第二部の利用方法と第三部の操作方法の解説では, まず森がCOSMOSの活用事例を示すことを目的に「教師と児童をつなぐ「教科書」— “考えを深める” から見る日常言語と学習言語・日本独特の学校文化-」と題した報告を行い, 学校教育の現場や授業研究への応用可能性について分析事例を解説した。次に毛利田が「教科書頻出語の“扱われ方”を調べる— 「書くこと」領域の学習における「まとめる」—」と題した報告を行い, 学校教育の現場

での応用可能性について分析事例を解説した。その上で、第三部において、ワーク1『『ごんぎつね』のキーワードを探す』（田中祐輔）、ワーク2教科書特有の表現の用いられ方を調べる』（森篤嗣）、付録資料紹介「学校教育現場に役立つ分析用ファイルの紹介」（毛利田奈津子）、の順で参加者の方々に実際にデータベースを操作していただきながら利用方法の解説を行なった。本節では、森が報告を行なった「教師と児童をつなぐ「教科書」－“考えを深める”から見る日常言語と学習言語・日本独特の学校文化-」について述べる。

小学校では2020年度から、中学校は2021年度から、高等学校は2022年度からとなる新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善が求められている。「主体的」と「対話的」は具体的にイメージできるが、「深い学び」とは何を指すのだろうか。

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。（文部科学省、2017）

学習指導要領解説に「深い学び」について上記の記述がある。全教科に共通する解説であるため、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」といった非常に抽象的な解説になっている。

そこで具体的に「どのような視点や考え方」で深い学びをおこなうのか、教師と児童・生徒をつなぐ教科書における記述を分析することによって、その内実の一端を明らかにしようとしたのが本発表の趣旨である。

本発表では、2015年度版小学校国語科検定教科書5社（光村、東京書籍、三省堂、学校図書、教育出版）の6学年分、延べ503,907語を収録した『帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース（COSMOS）』を調査対象とした。

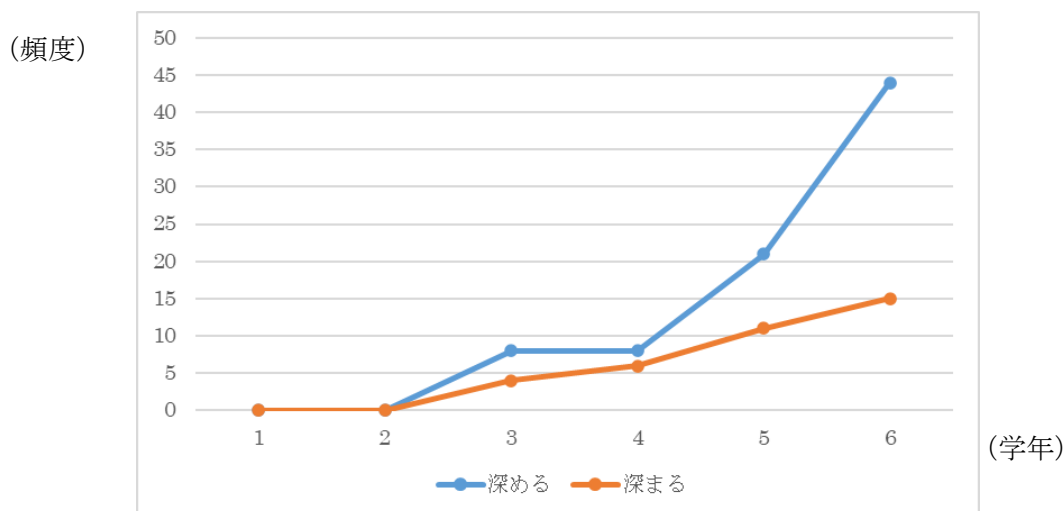


図4 「深める」と「深まる」

図4は5社の小学校国語科教科書に出現した「深める」と「深まる」の頻度である。いずれも学年が上がるにつれて回数が増えている。自動詞「深まる」は、他動詞「深める」に比べて増加は緩やかではあるがやはり増加傾向である。

表2 「何を」深めるのか

学年(出現頻度)	「深める」の目的語
3年(8)	※すべて「漢字の読み」
4年(8)	考え(8)
5年(21)	考え(17), 関わり(2), 考え方(1), 読み(1)
6年(44)	考え(34), 交流(3), 提案内容(2), 考えや思い(1), ものの見方や考え方(1), ものの見方や感じ方(1), 親善(1), 理解(1)

表2は、国語科教科書に出現した「深める」の目的語(「何を」)である。小学校3年から出現するが、「深」という漢字は学年別漢字配当なので、その読み方として出現しており、本調査の対象外と言える。4年以降で最多は「考え」であり、文部科学省(2017)が深い学びの鍵を「見方・考え方」としていることと一致している。「関わり」「交流」「親善」など、関係性の向上が対象となっていることも見て取れた。

- (1) 書いたものをたがいに読み合って自分の考えを深めましょう。(東京書籍5年「テレビとの付き合い方 てびき」)
- (2) さまざまな立場からの意見を聞くことによって論題についての自分の考えを深めることができます。(教育出版6年「未来の自動車ーパネルディスカッションをしようー」)

さらに、「何を(下線)」だけではなく「どうやって(四角囲み)」も見てみた。上記のような「読み合う」や「さまざまな立場からの意見を聞く」といった交流活動が「どうやって」に多く見られた。

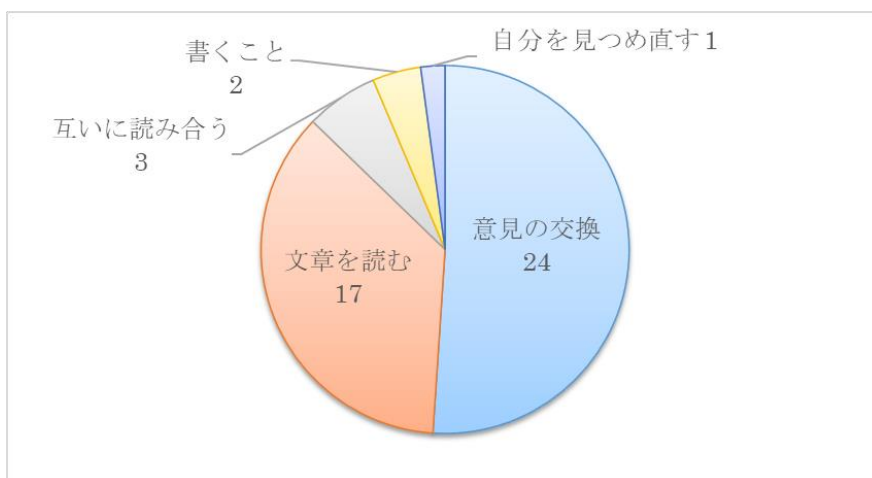


図5 「どうやって」深めるのか

「どうやって」に出現した部分を分類した結果が図5である。「考えを深める」ために、国語科教科書では一人で学ぶとしているのではなく「意見の交換」「読むこと」「書くこと」といった交流活動を促しているという点は、母語児童・外国人児童問わず、学習指導に当たってはおさえておきたい。

学習指導は「教師」「児童」「教材(教科書)」から成る。教科書は教師と児童で共有するものである。したがって、教科書に記載されている「(考えを)深める」という語について、教師がよく理解していることはもちろんのことである。それだけでなく、この「深める」という語は、日常言語とは異なった文脈で使われる日本の学校文化独特の学習言語であるとも言えるため、教師と児童の理解が一致しているかということも効果的な学習指導のためには重要なことであるだろう。

そして、今回取り上げた「深める」はあくまで一例ではあるが、日本の学校文化独特の学習言語は教科書にも教師の指導言語にも多数ある。これが外国人児童生徒の一つの障壁になっている可能性は高い。本研究は教師と児童を媒介する教科書での語の使われ方を調査することで、日本語指導担当者を含めた関係者が共通理解を深めていく方向性を模索したケーススタディである。

3-3. 「まとめる」を子どもたちにどう説明するか(話題提供者:毛利田奈津子)

本節では、毛利田が報告を行なった「教科書頻出語の“扱われ方”を調べるー「書くこと」領域の学習における「まとめる」ー」について述べる。

日本語指導を必要としているのは、外国にルーツを持つ子どもたちのみならず、通常学級に在籍する、学習に困難さを抱える子どもたちも同様である。COSMOSデータベースを活用することで、学習に困難さを抱える子どもたちへの学習指導、さらにはどの子どもたちにとっても分かりやすい学習指導の方法を模索する一助になりうると考える。

本発表ではCOSMOSデータベースから使用頻度の高い学習言語を集計し、その中から「まとめる」という動詞に着目し考察を行った。毛利田自身、小学校教諭として子どもたちと関わる中で、「まとめる」という語句に関しては以前から問題意識があった。教科書や教師が使う「まとめる」と、子どもたちが受け取る「まとめる」には解釈のずれがみられるのである。実際に話し合い活動の際、「グループ全体の意見の要点を整理する」という意味で「話し合ったことをグループでまとめて発表しましょう」と指示したとき、子どもたちはこの指示を「グループ内で最もよいと思われる意見のみを発表する」と解釈していたことがある。何をどのように形にすることが「まとめる」なのかを子どもたちに明確に説明しなければ伝わらないのである。また、「まとめる」という語句には日常言語と学習言語の二つの側面があり、「ばらばらの状態にあるもの(具体物)」を「一か所、一つにする」のように日常言語の「まとめる」が具体物に対して使われることが多いのに対し、学習言語の「まとめる」は「意見や考え」を「一つに集約する」こと以外にもさらに高度な「よりよいものに整理する」という意味を伴うこともある。この「まとめる」がもつ日常言語、学習言語の両方の性質、また学習言語としての「まとめる」の意味の複雑さが解釈のずれを引き起こしやすくしていると考えられる。しかし、詳しい説明のない漠然とした「まとめる」が現場では多く使われているのが実状である。

この、学習において障壁ともなりうる「まとめる」が5社の小学校国語科教科書にどのよ

うに出現するのかを COSMOS データベースを用いて調査した。

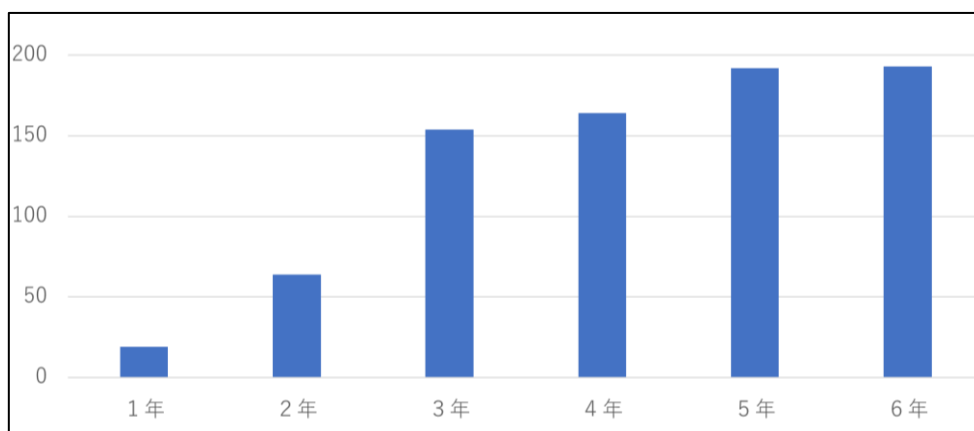


図6 「まとめ」の出現回数(学年別)

図6から、学年が上がるほどに「まとめ」の出現回数は高くなっている。これは、教科書会社ごとの調査においてもおおよそ同じような結果が得られた。さらに、5社における6年生の教科書に「まとめ」がどのような意味で用いられているのかを調査し、次に示すように大きく九つのグループに分類した。

- ①要点を書く。
- ②考えたことや意見を整理する。
- ③複数の内容を、表やグラフによって一覧しやすい形式にする。
- ④ある構成に従って、調べたことや考えたことを一連の文章にしたりレポートや物語などにしたりする。
- ⑤これまでに考えたことや述べてきたことを結論付ける。
- ⑥複数ある考えなどを集約して一つに絞る。
- ⑦物事の大体を捉える。
- ⑧ばらばらのものをひとまとまりにする。
- ⑨意見や考えを文章にする。

「読むこと」の領域の単元では、主に①と⑨の意味で使われているものがほとんどであったが、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域の単元では、②～⑧の項目で使用されており、「まとめ」が意味する内容の幅が広いことが明らかになった。

さらに、6年生の「書くこと」の領域における「まとめ」について調査を行った。5社の教科書にみられる全34例の「まとめ」の意味を、「何を」「どのように」「どのような形式で」の3観点で分析を行った。

表3 「書くこと」の単元における「まとめる」の意味

何を	どのように	どのような形式で
自分の考え・意見	物事の大体を簡潔に	文・文章
調べたこと	これまでに述べたことを整理して	図・表・グラフ・ノート等の一覧性の高いもの
学習者自身がこれまでに書いた作品	複数あるものを集約して	レポート・物語等の作品

表3から「書くこと」の領域に限定して分析しても、「まとめる」が意味する幅は非常に広いことが分かる。この中でも「どのように」にあたる内容が高度な意味合いを含んでいるにもかかわらず、教科書には明文化されていなかった。このことが、「まとめる」の解釈のずれや分かりにくさを生じさせている一因と考えられる。

以上のように、COSMOSデータベースを用いて特定の言葉を調査した結果、教科書には明文化されていない語句の意味が存在していることが明らかになった。教師は、自身の説明が子どもたちにとって具体的で分かりやすいものであるかどうかを常に意識することが求められるが、同時に、使用している教科書にも説明されていない部分が少なからずあり、教科書を工夫して使用することが必要なのである。今回調査した「まとめる」においては、特に「どのように」にあたる内容を詳しく説明することが重要であることが分かった。「まとめる」のように、日常言語と学習言語の両側面をもつ語句は、子どもたちにとって「実は意味を理解できていない」ことを自覚しにくい語句であるともいえる。だからこそ、解釈のずれは容易に起こりうるということを常に意識して指導にあたることが求められると考える。

4. 得られた知見と展望

本ワークショップの実施から得られた知見と展望についてまとめる。まず、田中報告では、COSMOSで国語教科書掲載語彙の全体像と難度が確認できることで、単元ごとにどのような語彙が扱われているかが明確となり、JSL児童の日本語能力に応じた学習支援が可能となることが確認された。これまで帰国・外国人児童が国語教科書を用いた学習に取り組む際に、どの部分の理解が困難か、ということについては、テストやフォローアップインタビュー、参与観察を用いて困難が生じた時点、もしくは事後に確認する他なかったが、教科書掲載語彙とその難度をあらかじめ把握しておくことで、そのつまずきの部分を語彙的側面からある程度予測することができるようになったと言える。また、JSL児童のためのリライト教材開発や補助教材開発にも、国語教科書掲載語彙のデータは活用できる可能性がある。

森報告からは、国語教科書の内容やその捉え方を超えて、小学校の学年配当システムなどへの示唆も得られた。成人に対する日本語教育と、子どもに対する日本語教育の大きな違いの一つは、日本語での教科指導の必要性の有無である。年少者日本語教育では、日本語能力の向上だけでなく、日本における学校の授業に適応していけるような指導が求められることが多い。しかし、日本語指導形態が取り出し授業である場合、日本語指導担当は教室という場から切り離されている。教科指導を円滑に進めるためには、担任教師・児童・日本語指導担当の三者をつなぐものの一つが教科書であり、教科書で使われている語、とりわけ日本の学校文化独特な学習言語に対して共通理解を図ることが重要である。また、学習言語の

理解不足は「学年相当の学習活動への参加が難しい」状況にさせる。かつてリーマンショック時に文部科学省は「定住外国人子ども緊急支援プラン」で下学年編入を認めると通知したことがある。しかし、二井(2015)が述べるように、日本の義務教育制度においては年齢主義が浸透しており、下学年編入や原級留置といった措置は、実態としてはほとんどおこなわれていない。日本人児童にはほとんどおこなわないのであるから、外国人だから下学年編入や原級留置を認めて良いというのは、文部科学省のダブルスタンダードであると前掲の二井(2015)も指摘している。学習言語と学年相当の学習活動への参加の問題は、外国籍児童生徒だけの問題ではない。外国籍児童生徒の受け入れを通して、日本の学校教育に対して、「学年相当の学習活動ができる力とは何か」という学びの本質が改めて迫られているのである。

毛利田報告では、COSMOSが教師の実践を組み立てる上でのサポートとなることが把握された。子どもたちが学習する際には教科書を用いることが基本となるが、その教科書の語句が子どもたちにとって本当に理解できるものであるかという視点は、教科書を使って指導する教師には常に必要である。毛利田報告で示されたように、COSMOSデータベースの分析によって、教科書に使われている語句にも子どもたちにとって「実は分かりにくい」ものが少なからず存在していることが明らかになった。国語科教科書に掲載されている文学的・説明的文章のみならず、それ以外の部分においても語句の一つ一つに着目し、意味をより正確に捉えさせることが重要なのではないかと考えられる。子どもたちに教科書を通して本質的に学ばせるためには、教師は子どもの言語生活から教科書の語句をどの程度理解しているのかを把握し、より正確により詳細な意味まで理解させるにはどのような説明が必要かを考えることが求められるのではないだろうか。

【引用文献】

- (1) 国際交流基金・日本国際教育支援協会(2002)『日本語能力試験出題基準【改訂版】』凡人社
- (2) 田中祐輔(2020)「COSMOS—帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース—」『計量国語学』32(5), 277-287
- (3) 二井紀美子(2015)「日本の公立学校における外国人児童生徒教育の理想と実態：修学・卒業認定基準を中心に」『比較教育学研究』51, 3-14.
- (4) 古川敦子(2015)「外国人児童に対する日本語指導の実践と課題—小学校教員による「個別の指導計画」作成を事例として—」『共愛学園前橋国際大学論集』15, 共愛学園前橋国際大学, pp.69-84
- (5) 法務省入国管理局(2021)「令和2年末現在における在留外国人数について」https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00014.html (最終閲覧日 2021.10.15)
- (6) 文部科学省(2010)「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(最終報告) 小学校編」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm (最終閲覧日 2021.10.15)
- (7) 文部科学省(2014)「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について(通知)」https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00034.html (最終閲覧日 2021.10.15)

- (8) 文部科学省(2015)「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成26年度)の結果について」https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/_icsFiles/afieldfile/2015/06/26/1357044_01_1.pdf(最終閲覧日2021.10.15)
- (9) 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 総則編』文部科学省
- (10) 帰国・外国人児童のためのJSL国語教科書語彙シラバスデータベース『COSMOS』

<https://cosmos.education/>



【付記】

本研究は、公益財団法人博報堂教育財団による「第13回児童教育実践についての研究助成」を受け実施されたものです。また、本研究を遂行する上で、帰国児童・外国人児童のご家族や教職員の方々、JSL児童教育の専門家の方々にご教示とご協力をいただきました。ここに記して心より感謝申し上げます。

(青山学院大学・京都外国語大学・葛城市立新庄北小学校)